

令和4年度市民等意識調査の集計結果 ～掛川市が住みやすいと感じる市民 77.0%～

【目的・概要】

令和4年度市民意識調査及び高校生意識調査の集計結果の概要について報告します。

「第2次掛川市総合計画」の推進にあたり、掛川市民が掛川市の現状をどう感じているか、また、掛川市の様々な施策について、何に満足し何が不満なのかを把握し、さらなる市民サービスの向上と着実な行政運営に繋げるため、アンケート調査を実施しました。

併せて、高校生の進路に対する意識や理想の家族像などに関する意識を把握し、人口減少、人口流出に関する施策などを推進するため、高校生を対象とした意識調査を実施しました。

【アピールポイント】

- ・掛川市が住みやすいと思う市民の割合 77.0%（前年比 1.3 ポイント減少）
- ・浜岡原子力発電所の今後について
 - 「廃炉」もしくは「停止」と回答した割合 36.1%（前年比 8.5 ポイント減少）
 - 「安全が確認できれば稼働したほうが良い」と回答した割合 32.9%
(前年比 3.8 ポイント増加)

1 市民意識調査

- (1) 調査対象：市内在住の18歳以上の市民の中から2,500人を抽出
- (2) 調査期間：令和4年4月27日～令和4年5月12日
- (3) 調査方法：郵送により発送・回収

2 高校生意識調査

- (1) 調査対象：市内の4つの高等学校に在席する3年生
- (2) 調査期間：令和4年5月12日～令和4年5月26日
- (3) 調査方法：各高校経由で配布・回収

3 資料の添付 有 ・ 無（「市民意識調査報告書」、「高校生意識調査報告書」）

■本件に関する担当者

企画政策課地域創生戦略室経営戦略係 西村・雪山（電話 0537-21-1127）

あなたの夢、
描いたつづきは
掛川で。

I 市民意識調査の結果

1 回収状況

1, 170枚 (回収率 46.8%)

年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
配布数	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
回収数	1,173	1,014	1,368	1,349	1,170
回収率	46.9%	40.6%	54.7%	54.0%	46.8%

※有効回答のみ

【年代別の回収状況】

	配布数 (通)	構成比 (%)	回収数 (通)	回収率 (%)
18歳以上20歳未満	88	3.4	17	19.3
20歳代	402	16.1	122	30.3
30歳代	402	16.1	169	42.0
40歳代	402	16.1	160	39.8
50歳代	402	16.1	181	45.0
60歳代	402	16.1	244	60.7
70歳代以上	402	16.1	262	65.2
無回答	0	0	15	-
計	2,500	100.0	1,170	46.8

2 結果概要 ※詳細は、別冊「市民意識調査報告書」をご覧ください。

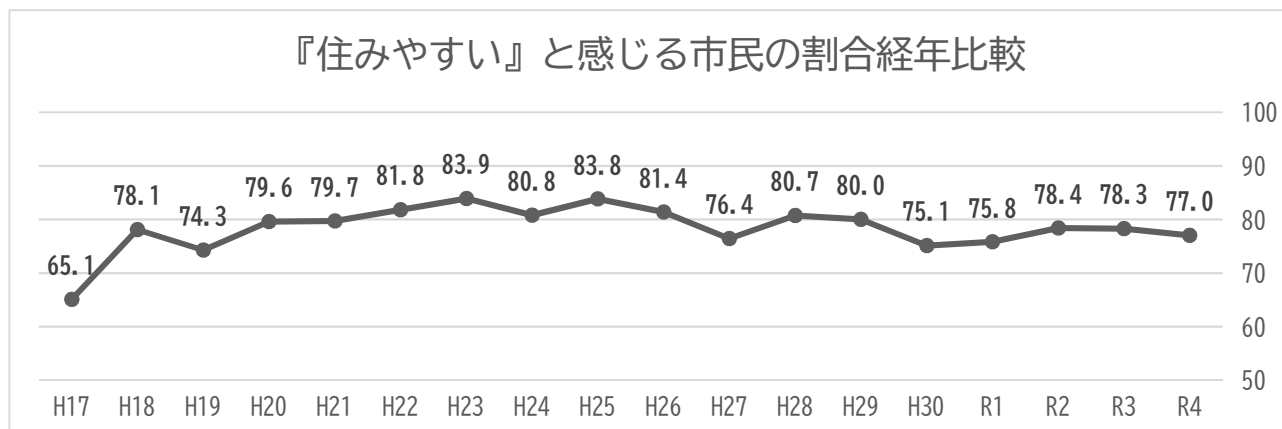
(1) 掛川市の住みやすさについて (報告書：9ページ)

①住みやすさの割合

掛川市が住みやすいと思う市民の割合は77.0%で、前年と比べて1.3ポイントの減少となりました。中学校区別では、掛川区域が70%~80%台、大東区域がおおむね70%、大須賀区域では50%台となり、南部地域において、住みやすさを実感していない方の割合が多い結果となっています。

【参考：平成17年度以降の経年変化】

(%)



※「とても住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合を合算

【中学校区別住みやすさの割合】

(%)

	東	西	栄川	北	原野谷	桜が丘	大浜	城東	大須賀
R 4	82.0	87.5	77.3	79.7	71.4	80.3	71.8	67.6	51.4
R 3	81.8	85.3	82.9	87.5	78.9	79.1	70.0	69.3	52.1
前年比	0.2	2.2	△5.6	△7.8	△7.5	1.2	1.8	△1.7	△0.7

②住みやすさの理由

住みやすさの理由としては、「新幹線の駅や高速道路のインターチェンジなど広域交通のアクセスの便がよい」が59.9%と最も多く、次いで「気候が温暖」が56.8%という結果でした（3つ以内で回答、上位3項目を記載）。

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人・・・901人

	選 択 肢	件数	比率	前年比
1.	新幹線の駅や高速道路のインターチェンジなど広域交通のアクセスの便がよい	540件	59.9%	0.5
2.	気候が温暖	512件	56.8%	△1.5
3.	自然が豊か	456件	50.6%	△4.6

※複数回答あり

③住みにくさの理由

住みにくさの理由としては、「買い物場所やレクリエーション施設が充実していない」が44.9%で最も多く、次いで「地域内のバス路線などの公共交通網が整備されていない」が41.4%という結果でした（3つ以内で回答、上位3項目を記載）。

「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した人・・・227人

	選 択 肢	件数	比率	前年比
1.	買い物場所やレクリエーション施設が充実していない	102件	44.9%	0
2.	地域内のバス路線などの公共交通網が整備されていない	94件	41.4%	△5.0
3.	広域交通のアクセスの便がよくない	70件	30.8%	△7.3

※複数回答あり

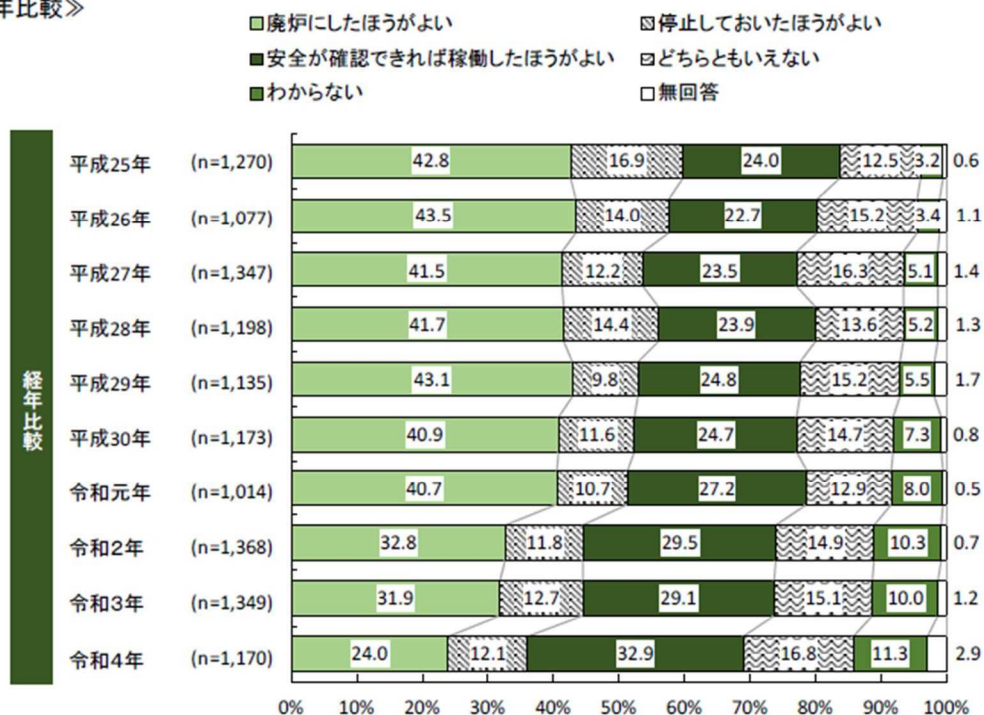
(2) 浜岡原子力発電所の今後について（報告書：14 ページ）

浜岡原子力発電所の今後については、「安全が確認できれば稼働したほうがよい」が32.9%で最も多く、調査開始以降、初めて「廃炉にしたほうがよい」を上回りました。ただし、「廃炉にしたほうがよい」と「停止しておいたほうがよい」を合わせると36.1%となり、「安全が確認できれば稼働したほうがよい」とやや上回りました。

(%)

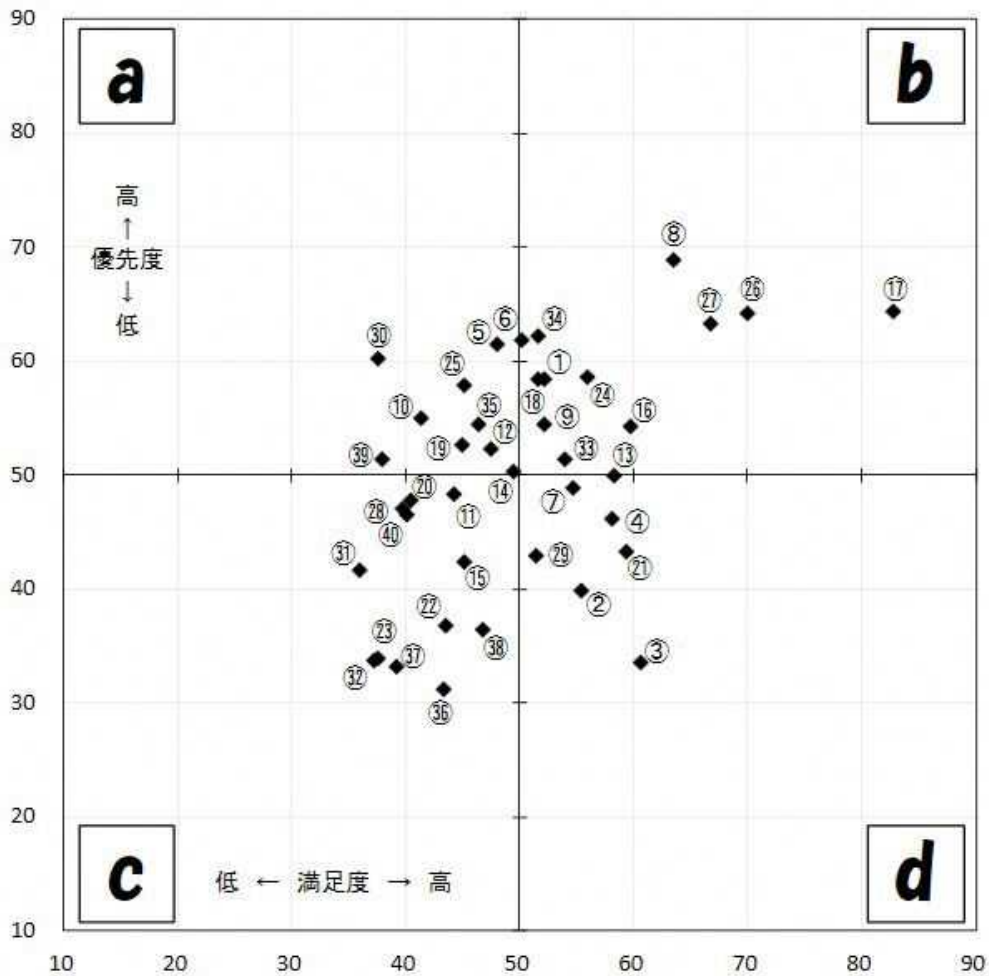
項目\年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	前年比
廃炉+停止	59.7	57.5	53.7	56.1	52.9	52.5	51.4	44.6	44.6	36.1	△8.5
廃炉	42.8	43.5	41.5	41.7	43.1	40.9	40.7	32.8	31.9	24.0	△7.9
停止	16.9	14.0	12.2	14.4	9.8	11.6	10.7	11.8	12.7	12.1	△0.6
安全が確認 できれば稼働	24.0	22.7	23.5	23.9	24.8	24.7	27.2	29.5	29.1	32.9	3.8
どちらとも いえない	12.5	15.2	16.3	13.6	15.2	14.7	12.9	14.9	15.1	16.8	1.7
わからない	3.2	3.4	5.1	5.2	5.5	7.3	8.0	10.3	10.0	11.3	1.3
無回答	0.6	1.1	1.4	1.3	1.7	0.8	0.5	0.7	1.2	2.9	1.7

《経年比較》



(3) ポートフォリオ分析によるプロジェクトの市民ニーズ（報告書：16 ページ）

重要プログラムの満足度と優先度を点数化して偏差値を算定し、縦軸に優先度、横軸に満足度をとってグラフ化しました。座標の原点は、満足度と優先度の平均値としています。



ポートフォリオ分析表

① 満足度が低く、優先度が高い施策：aゾーン

サービスの水準が低く、優先度が高いことから、不満の解消に向けて積極的に投資すべき施策

個別施策	満足度	優先度
⑤ 子育てしやすい環境の整備	48.1	61.5
⑩ 障がいのある方の幸せな暮らしの支援の充実	41.3	55.1
⑫ 省エネ・省資源、再生可能エネルギーの普及	47.5	52.4
⑭ 美しい森林や海岸等の保全と防災機能等の多面的な活用	49.5	50.3
⑰ 商工業の更なる発展	45.0	52.6
⑳ 災害に強い住宅や都市基盤施設等の整備	45.1	57.8
㉓ 交通弱者の移動手段の確保	37.6	60.2
㉕ 安全確保と長寿命化に向けた道路施設の維持管理	46.4	54.5
㉙ 健全で計画的な行政経営	38.0	51.5

②満足度・優先度ともに高い施策：bゾーン

サービスは一定の水準に至っているが、優先度が高いことから、積極的に現状維持すべき施策

個別施策	満足度	優先度
① 市民総ぐるみで取り組む子どもの育成	52.2	58.5
⑥ 安心して出産・子育てできる環境の整備	50.2	61.9
⑧ 誰もが安心して医療を受けられる環境の整備	63.5	69.0
⑨ 高齢者が生き生きと暮らせる環境づくり	52.2	54.5
⑬ 誰もが集える身近な公園・緑地が充実	58.2	50.1
⑯ 快適に暮らせる生活環境の確保	59.7	54.3
⑰ 安全な水の安定した供給	82.7	64.3
⑱ 雇用・就業の環境の整備	51.6	58.4
⑳ 自助・共助・公助による防災・減災対策の強化	56.0	58.5
㉒ 消防救急体制の充実による被害を最小限に食い止める環境	69.9	64.1
㉓ 交通安全と防犯の意識向上と環境整備	66.7	63.2
㉔ 渋滞の無い快適な道路交通が確保	53.9	51.4
㉕ 歩行者も車も安全に通行できる生活道路の整備	51.6	62.1

【満足度のランキング（上位10位）】

	満足度
第1位	⑰ 安全な水の安定した供給
第2位	㉒ 消防救急体制の充実による被害を最小限に食い止める環境
第3位	㉓ 交通安全と防犯の意識向上と環境整備
第4位	⑧ 誰もが安心して医療を受けられる環境の整備
第5位	③ 郷土の文化の保存と文化芸術活動の振興
第6位	⑯ 快適に暮らせる生活環境の確保
第7位	㉑ 「掛川茶」のブランド化と「掛川茶」を楽しむ環境
第8位	⑬ 誰もが集える身近な公園・緑地が充実
第9位	④ スポーツを楽しめる環境の整備
第10位	㉔ 自助・共助・公助による防災・減災対策の強化

【優先度のランキング（上位10位）】

	優先度
第1位	⑧ 誰もが安心して医療を受けられる環境の整備
第2位	⑰ 安全な水の安定した供給
第3位	㉒ 消防救急体制の充実による被害を最小限に食い止める環境
第4位	㉓ 交通安全と防犯の意識向上と環境整備
第5位	㉕ 歩行者も車も安全に通行できる生活道路の整備
第6位	⑥ 安心して出産・子育てできる環境の整備
第7位	⑤ 子育てしやすい環境の整備
第8位	㉓ 交通弱者の移動手段の確保
第9位	㉔ 自助・共助・公助による防災・減災対策の強化
第10位	① 市民総ぐるみで取り組む子どもの育成

II 高校生意識調査の結果

1 回収状況

763 枚 回収（回収率 92.6%）

2 結果概要 ※ 詳細は、別冊「高校生意識調査報告書」をご覧ください。

(1) 高校卒業後の進路について（報告書：8 ページ）

高校卒業後の進路に関して調査したところ、「県外の大学・専門学校等へ進学したい」が 39.3%（前年 42.0%）でもっとも多く、全体の 68.1%（前年 70.4%）が進学を希望しています。

あわせて、進学後の進路に関する調査したところ、「県外で就職したい」が 45.8%（前年 48.5%）、「掛川市以外の県内で就職したい」が 29.4%（前年 22.6%）、「出身市町・今住んでいる市町（掛川市以外）に就職したい」が 12.1%（前年 16.3%）、「掛川市内で就職したい」が 10.0%（前年 10.0%）となりました。

掛川市以外での就職を希望した理由については、「都会で働きたい」が 32.7%（前年 35.5%）、「掛川市に自分が就きたいと思う仕事がない」が 24.6%（前年 25.0%）となりました。（2つ以内で回答）

【高校卒業後の進路】

選択肢	件数	比率
1. 県内の大学・専門学校等へ進学したい	220	28.8%
2. 県外の大学・専門学校等へ進学したい	300	39.3%
3. 掛川市内に就職したい	45	5.9%
4. 出身市町・今住んでいる市町（掛川市以外）に就職したい	35	4.6%
5. 掛川市以外の県内に就職したい	47	6.2%
6. 県外で就職したい	9	1.2%
7. まだ考えていない・特に決まっていない	32	4.2%
無回答	75	9.8%
計	763	100%

【卒業後の進路】

「県内の大学・専門学校等へ進学したい」、「県外の大学・専門学校等へ進学したい」と回答した人…520人

選択肢	件数	比率
1. 掛川市で就職したい	52	10.0%
2. 出身市町・今住んでいる市町（掛川市以外）に就職したい	63	12.1%
3. 掛川市以外の県内で就職したい	153	29.4%
4. 県外で就職したい	238	45.8%
5. 外国で就職したい	11	2.1%
無回答	3	0.6%
計	520	100%

(2) 掛川市に住みたい理由について（報告書：12 ページ）

掛川市に住みたいと回答した人は 137 人（18.0%）で、住みたい理由は、「掛川市が一番住みやすいと思う」が 59.9%（前年 53.1%）と最も多く、次いで「新幹線掛川駅や高速道路インターチェンジ等があり便利だから」が 18.2%（前年 14.2%）、「掛川市に自分が就きたいと思う仕事がある」が 15.3%（前年 13.0%）でした（理由は2つ以内で回答）。

【掛川市に住みたい理由】

「掛川市に住みたい」と回答した人…137人

選択肢	件数	比率
1. 長男または長女で、家を継がなければならない	3	2.2%
2. 親と一緒に住みたい（親の面倒をみる必要がある）	17	12.4%
3. 友人から離れたくない	12	8.8%
4. 掛川市が一番住みやすいと思う	82	59.9%
5. 掛川市に自分が就きたいと思う仕事がある	21	15.3%
6. 新幹線掛川駅や高速道路インターチェンジ等があり便利だから	25	18.2%
7. その他	15	10.9%
無回答	0	0.0%
計	137	-

※複数回答

(3) 理想の家族像について（報告書：13 ページ）

結婚については、「はい」が81.0%（前年83.0%）と高く、また、子どもについても「欲しい」が77.6%（前年80.3%）と高い割合となりました。

理想の家族像としては、「自分たち夫婦と子どもの世帯で、自分または相手の親とは離れて住む」が45.2%（前年46.7%）となりました。次いで「自分たち夫婦と子どもの世帯で、自分または相手の親の近くに住む」が29.5%（前年27.8%）で、二世代の核家族を理想とする意見が7割を占めました。

【将来結婚したいか】

選択肢	件数	比率
1. はい	618	81.0%
2. いいえ	138	18.1%
無回答	7	0.9%
計	763	100.0%

【将来子どもがほしいか】

選択肢	件数	比率
1. 欲しい	592	77.6%
2. 欲しくない	164	21.5%
無回答	7	0.9%
計	763	100.0%

【理想とする家族の形態】

選択肢	件数	比率
1. 一人暮らし	110	14.4%
2. 自分たち夫婦の二人暮らし	57	7.5%
3. 自分たち夫婦と子どもの世帯で、自分または相手の親とは離れて住む	345	45.2%
4. 自分たち夫婦と子どもの世帯で、自分または相手の親の近くに住む	225	29.5%
5. 自分または相手の親、自分たち夫婦、子どもの三世帯で同居する	9	1.2%
6. その他	10	1.3%
無回答	7	0.9%
計	763	100.0%

(4) 二十歳の集い（旧成人式）と成年年齢の引き下げについて

令和4年4月からの成年年齢の引き下げに係り、二十歳の集い（旧成人式）への出席したいかについては、「出席したい」が75.9%、対して「出席したくない」が7.3%となりました。

成年年齢が引き下げられることに対する気持ちについては、「楽しみでもあり、不安にも思う」が56.4%、続いて「不安に思う」が21.5%、「楽しみに思う」が17.3%となり、7割が成年年齢の引き下げに対して、不安を感じているという結果となりました。

【二十歳の集いへ出席したいか】

選択肢	件数	比率
1. 出席したい	579	75.9%
2. 出席したくない	56	7.3%
3. わからない	109	14.3%
無回答	19	2.5%
計	763	100.0%

【成年年齢の引き下げへの気持ち】

選択肢	件数	比率
1. 楽しみに思う	132	17.3%
2. 楽しみでもあり、不安にも思う	430	56.4%
3. 不安に思う	164	21.5%
無回答	37	4.8%
計	763	100.0%

以上